

令和3年度 学校評価集計結果/成果と課題/改善策・向上策

▲…目標指数に達しなかった項目

項目	具体的取組	評価の観点 ★…スクールプランの数値目標	回答者	目標指数	結果	前年度	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
I 確かな学力	すべての教員が、最低1回は授業を公開し、楽しく分かる授業をめざす。	教材研究を行い、授業形態や教材・教具を工夫し、分かる授業の実践に努めている。(取組指標)	教員	90	100	100	児童一人につき1タブレットを使用し、効果的な学習の実践に取り組んだ。特に、学習活動ソフトウェアやデジタル教科書、計算・漢字などのドリル学習アプリなどの活用は、児童の興味関心を高め、効果的な学習につながった。	ICT機器を授業の中で活用していくことについては、これからも実践や研究を進めていく必要がある。児童の理解の様子を見ながら、教員同士の研修を重ね、これからも実践を重ねていく。	タブレットPCは大人でも熱中するものだから、子どもたちも楽しんで学習できるであろう。タブレットPCを使った授業など、先生は使いこなすための研修が大変であろうが、有効に活用して学力向上に生かせるようにして欲しい。
		教材研究を行い、授業形態や教材・教具を工夫し、分かる授業を実践することにより、児童は授業がよくわかるようになっている。(成果指標)	教員	90	100	100			
		★児童は、授業がよくわかるようになっている。(成果指標)	児童	90	92	93			
		子どもは、授業がよくわかるようになっている。(満足度指標)	保護者	80	85	84			
	日々の授業を通して、読み・書き・計算の基礎的な力を養う。	日々の授業を通して、読み・書き・計算の基礎的な力をつけることに対しては、どの回答者からも目標指数を上回った結果を得ることができた。確認テストなどの回数を検討し、無理なく児童の学力定着を図ったことよって、より児童がテストに取り組むやすさを感じようになったと考える。	教員	95	100	100	日々の授業を通して、基礎的な力をつけることに対しては、どの回答者からも目標指数を上回った結果を得ることができた。確認テストなどの回数を検討し、無理なく児童の学力定着を図ったことよって、より児童がテストに取り組むやすさを感じようになったと考える。	節目節目に到達度を確認する上では、確認テストの過去問があるため、データ等を保管しておき、いつでも使用できるようにする。また、学習への興味づけにタブレット端末を活用するなど、ICT機器を活用した基礎学力定着のための実践について、情報共有する機会をもつ。	読書は習慣だと思う。小さい時から読み聞かせをしている家庭の子どもはよく本を読んでいる。家庭での習慣が大切である。コロナ禍で停止していた学校からの本の持ち帰りを最近再開したそうだが、できるだけ週末に本を持ち帰らせて、本に触れる機会を増やして欲しい。
		日々の授業を通して、読み・書き・計算の基礎的な力がついていく。(成果指標)	教員	95	100	95			
		児童は、日々の授業を通して、読み・書き・計算の力がついた。(成果指標)	児童	95	96	95			
		子どもは、日々の授業を通して、読み・書き・計算の力がついた。(満足度指標)	保護者	80	84	87			
	読書環境を整えると共に、市の図書館と連携をとり、調べ学習などを推進して、読む力、考える力の向上を図る。	読書や調べ学習を推進して、児童の読む力、考える力が向上するための取り組みをしている。(取組指標)	教員	90	95	94	教員は朝読書の時間に読書に取り組みせたり、授業の中で調べ学習をさせたりして、読む力や考える力が向上してきたと考えている。一方で、児童や保護者はそういった意識が高くない。そのため、家庭での読書を推進する活動が必要である。	図書室の本を土日に持ち帰ることができるようになる。いつも読まない本にも出会うことができるように、図書委員会で図書ビンゴ(分類番号を使ったビンゴ)に取り組む。新聞は切り抜きを掲示委員会や図書委員会で掲示する。	図書室の本を土日に持ち帰ることができるようになる。いつも読まない本にも出会うことができるように、図書委員会で図書ビンゴ(分類番号を使ったビンゴ)に取り組む。新聞は切り抜きを掲示委員会や図書委員会で掲示する。
		読書や調べ学習を推進して、児童の読む力、考える力が向上できた。(成果指標)	教員	90	86	72			
		児童は、読書や調べ学習活動を通して、読む力、考える力が向上した。(成果指標)	児童	90	68	77			
		★子どもは、家庭で本をよく読んだり、図書館を利用したりしている。(満足度指標)	保護者	70	35	38			
II 豊かな心	道徳教育を要として、道徳的実践力を養成する。	児童の人権や生命を大切にする意識が高まるように道徳等で指導を行う。(取組指標)	教員	90	90	95	道徳の学習に意欲的に取り組む児童は、目標指数を達成できている。タブレットを用いた活動を取り入れたり、発問を工夫したりすることで、児童の考えを深めることができた。	コロナ禍のため、近年は実施できていないが、授業公開日に道徳の授業を行った。タブレットを用いた活動を取り入れたり、発問を工夫したりすることで、児童の考えを深めることができた。	コロナ禍であったので、地域でのボランティア活動に児童が参加するのが難しく思った。人々の中に入ってこそボランティアだと思わないので、感染の広がりを考慮し、感染予防をした上でボランティア的活動に取り組んで欲しい。
		道徳等の指導を通して、児童の人権や生命を大切にする意識が高まっていると思う。(成果指標)	教員	90	95	100			
		児童は、道徳の学習に意欲的に取り組んでいる。(成果指標)	児童	90	93	93			
		子どもの人権や生命に関する言動が、以前より成長したと感じている。(満足度指標)	保護者	80	80	78			
	ボランティア活動を取り入れ、思いやりの心を育てる。	ボランティア活動を取り入れ、思いやりの心を育てる。(取組指標)	教員	90	32	28	学級でできるゴミ拾いなどの小さなボランティア活動を継続して取り組んだ。また、縦割り活動が再開し、縦の関係ができたことで、下級生への思いやりの心が育まれた。保護者が実感できる機会を設ける必要がある。	ボランティア委員会の活動として、全校にボランティアを募って活動したり、全校でゴミを拾う意識を高める声掛けをする。低学年の生活科で学習する、家庭でできるお手伝いを6年生まで継続させる。	ボランティア委員会の活動として、全校にボランティアを募って活動したり、全校でゴミを拾う意識を高める声掛けをする。低学年の生活科で学習する、家庭でできるお手伝いを6年生まで継続させる。
		ボランティア活動を取り入れたことで、児童に思いやりの心が育っていると感じている。(成果指標)	教員	90	60	39			
		★児童は思いやりの心をもち、みんなに対して優しく接することができたと感じている。(成果指標)	児童	90	88	88			
		★子どもに思いやりの心が育っていると感じている。(満足度指標)	保護者	80	88	88			
	「いじめ防止基本方針」を元に、教育相談活動を重視して、いじめの防止、早期発見、早期対応に努める。	日常の対話により児童生徒の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行っている。(取組指標)	教員	80	100	100	児童と先生が話をする時間は例年と同じ回数確保しているが、「話をする機会が増えたか」という問いであったためか、達成度は低くなった。いじめなどへの対応はすみやかに行われていると思う。	児童について共通理解を図る場合は月1回の職員会議の後だけではなく、緊急を要する案件に関しては、毎日開催されている終礼時にも行えるようにする。また、指導の経過は共有するシートでは、児童の掃除場所や縦割り班を記入する欄を作り、指導に活かす。	児童について共通理解を図る場合は月1回の職員会議の後だけではなく、緊急を要する案件に関しては、毎日開催されている終礼時にも行えるようにする。また、指導の経過は共有するシートでは、児童の掃除場所や縦割り班を記入する欄を作り、指導に活かす。
		教育相談活動を通して、いじめの防止、早期発見、早期対応を行うことができた。(成果指標)	教員	90	100	100			
		児童は、先生と、学習や生活について話をする機会が増えたと感じている。(成果指標)	児童	80	69	74			
		★児童は、友だちもいて学校に通うのが楽しいと感じている。(成果指標)	児童	90	93	95			
子どもは、友だちもいて学校に通うのが楽しいと感じている。(満足度指標)		保護者	80	88	89				

III 健やかな体	業間運動でマラソンやなわとび等を行い、体力の向上を図る。	業間マラソンやなわとび等で、児童の体力が増進するような取組を行っている。(取組指標)	教員	90	91	100	感染予防のために多くの制約があった中で、可能な限り業間運動を実施することができ、児童も一生懸命取り組むことができた。授業の中でも、さらに体力向上を図りたい。ICTの活用も、さらに進めていく必要がある。	業間運動では、学年ごとに目標を明確に定め、達成感を味わえるようにする。授業では、全学年共通の準備運動や、各単元に必要な動きの練習などを共有し、技術の向上を図る。動きのポイントがわかる動画を共有し、活用する。	学校でも交通安全の指導に取り組んでいるようだが、最近では自転車に乗っている子を見かけることが少なくなっている。出る機会が少なくなり事故は少なくなるであろうが、交通安全の知識や技能は低下するかもしれない。引き続き地域、家庭、学校での安全指導をお願いしたい。	
		児童は、業間マラソンやなわとび等で体力が増進されている。(成果指標)	教員	90	100	95				
		★児童は、業間マラソンやなわとび等で体力づくりを頑張っている。(成果指標)	児童	90	96	95				
		子どもは、業間マラソンやなわとび等で体力づくりを頑張っている。(満足度指標)	保護者	80	94	88				
	「1・8・1生活チェック」やノーテレビタイム、ノーゲームデー等を家庭と協力して実施し、規則正しい生活習慣の実現を目指す。	「1・8・1生活チェック」等で、基本的な生活習慣を身につけさせる取組を行っている。(取組指標)	教員	90	80	100	1・8・1の数字の意味を教員・保護者・児童が理解したうえで実施する必要がある。特に教員間の共通理解が必要である。	ネーミングを「すこやかチェック」に変更し、チェック項目を再検討する。早寝・早起き・朝ごはん・ノーテレビデー・ノーゲームデーを盛り込む。何のためにするのか、事前指導の手立てなど、教員間の共通理解が大切である。		
		「1・8・1生活チェック」等で、児童は、基本的な生活習慣が身についている。(成果指標)	教員	90	80	100				
		児童は、「1・8・1生活チェック」等で、基本的な生活習慣が身についている。(成果指標)	児童	90	90	89				
		★子どもは、「1・8・1生活チェック」等で、基本的な生活習慣づくりに努力している。(満足度指標)	保護者	80	63	70				
	交通安全指導や防災・防犯・引き渡し訓練を通して自分の身を守る意識を高める。	交通安全指導や防災・防犯訓練を通して、安全に対する指導を十分行っている。(取組指標)	教員	90	100	100	低学年の歩き方教室、中学年の自転車教室、高学年のスケアードストリート(人形を使った危険回避予測訓練)が予定通り実施できた。中学年の自転車教室では、自転車を持参できる児童が少なかったために十分な学びができなかった。	中学年の自転車持参を、地区を限定して持参していただくなど工夫する。高学年についても、自転車教室を実施する。防犯訓練を充実させて、不審者への対応についても身につけさせる。		道でボード系の乗り物で遊んでいる児童を見かける。長い坂道がある区内で、かなりのスピードを出している児童もいるので危険だと思う。
		児童は、交通安全指導や防災・防犯訓練を通して、児童は自分の身を守る意識が高まっている。(成果指標)	教員	90	96	95				
★児童は、交通安全指導や防災・防犯訓練で学んだことから、自分で安全に気をつけている。(成果指標)		児童	90	98	97					
子どもは、交通安全教室や防災訓練で安全に気をつけて生活している。(満足度指標)		保護者	80	84						
IV 信頼される学校	ホームページを定期的に更新するとともに、「学年だより」などを発行して学校の情報を発信する。	ホームページを定期的に更新したり、いろいろな「たより」を定期的に発行したりして、学校の情報を発信する。(取組指標)	教員	90	82	84	定期的に各種おたよりを発行することができたが、ホームページの更新作業にかかる時間が確保できなかった。限定的な行事の公開や学校公開を行ったが、感染拡大により予定していた学校公開が中止や延期せざるを得ないときがあった。	ホームページでは活動の様子をお知らせするNEWSがよく見られているので、前もって計画を立て、全学年でバランス良く情報発信を行う。感染症の拡大状況に応じて、行事の実施方法や公開方法を工夫しながら、できる限り公開の機会を確保する。	あいさつをする子が以前より減っているように感じる。知らない人としやべってはいけないというご時世でもあるが、コロナ禍で地域の行事がなくなって、知り合う機会も奪われたことも影響しているのかもかもしれない。	
		★ホームページの更新やいろいろな「たより」の発行等で、学校の教育内容を発信している。(満足度指標)	保護者	80	89	88				
	学校公開日を年数回実施し、保護者や家族の方々に児童の活動の様子を積極的に公開する。	学校公開や学校行事を通して、積極的に児童の活動の様子を公開する。(取組指標)	教員	90	86	80	ネット利用の利便性と危険性について、保護者と協力して児童に伝えていく必要がある。	様々な機会を利用して、児童はもちろんのこと、教員自身や保護者の方も含めて、ネットリテラシーを向上していく。		
		★学校公開や学校行事を通して、学校の様子がよくわかる。(満足度指標)	保護者	80	78	85				
	ネット利用や情報モラルについて情報を発信する	ネットの利用や情報モラルについて、必要な情報を発信する。(取組指標)	教員	90	86	40	毎朝のあいさつ運動などにより、児童の挨拶に対する意識は向上しているが、目をあわせたり心をこめたりした「気持ちのよい挨拶」や、「積極性のある挨拶」はまだ出来ているとは言えず、課題がある。	挨拶の指導の仕方について、教員が意思統一し、学校全体で呼びかけられるようにする。		
		ネットの利用や情報モラルについて、親子で話し合いの機会をもつ。(満足度指標)	保護者	90	74	74				
		家庭や地域の方々と連携して、自らあいさつのできる子を育てる。	教員	90	100	100				
		児童は自分から元気にあいさつをしている。(成果指標)	教員	90	68	77				
	地域や保護者と積極的に関わった学習や行事を行うようにする。	地域や保護者と積極的に関わった学習や行事を行うようにする。(取組指標)	教員	90	87	95	今年度も、コロナ禍により例年のような外部講師やボランティアの方々に協力していただくような行事があまり実施できなかった。計画したのにできなかったこともあり、残念に思う。今後は、感染症対策を徹底し、工夫しながらできることを増やしていく必要がある。	地域人材リストを活用しながら、新たな地域の教育資源を掘出し、「人・もの・こと」の有効活用をさらに進める。活動の様子や学習成果を保護者に伝える場を設け、学校でやっていることを積極的に発信していくようにする。		
		児童の、地域の伝統や文化に対する関心は高まっている。(成果指標)	教員	90	75	75				
★児童は、地域の伝統や文化に関心がある。(成果指標)		児童	80	89						
子どもは地域の伝統や文化に関心がある。(満足度指標)		保護者	80	42						